

MACF礼拝説教要旨

2022年4月17日

「イースター礼拝」

「心は燃えていたではないか」

【ルカによる福音書24章】

24:13 ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、

24:14 この一切の出来事について話し合っていた。

24:15 話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。

24:16 しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。

24:17 イエスは、「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」と言われた。二人は暗い顔をして立ち止まった。

24:18 その一人のクレオパという人が答えた。「エルサレムに滞在していながら、この数日そこで起こったことを、あなただけはご存じなかったのですか。」

24:19 イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。

24:20 それなのに、わたしたちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまったのです。

24:21 わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださると望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。

24:22 ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、

24:23 遺体を見つけずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。

24:24 仲間の者が何人か墓へ行って見たのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」

24:25 そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、

24:26 メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」

24:27 そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。

24:28 一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。

24:29 二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。

24:30 一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。

24:31 すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。

24:32 二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。

1) 弟子たちの失望

24:18 その一人のクレオパという人が答えた。「エルサレムに滞在していながら、この数日そこで起こったことを、あなただけはご存じなかったのですか。」

24:19 イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。

24:20 それなのに、わたしたちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまったのです。

24:21 わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださると望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。

弟子たちはがっかりしていました。ある意味で絶望していたのです。

だからこそ、このふたりはその活動をやめて田舎に戻ろうとしていたのかもしれませんが。

肉に属する世界においては「死」がすべてを終わりにしてしまう力をもっているように思える。

「死と絶望」が人間にはつきものであり、死をもってそれまでのすべてのものが崩壊してしまうような気分になることが多いです。

イエス様が死んでしまった、殺されてしまった。もう何も残っていない絶望だという空気が支配していたのです。

2) 復活への無理解

24:22 ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、

24:23 遺体を見つげずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。

24:24 仲間の者が何人か墓へ行って見たのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」

この二人の弟子は困惑していました。

どうも、イエス様の場合には事情が違っているように思えたからです。婦人たちの情報によれば、墓には遺体がなくなっていて「イエスは生きておられる」というメッセージを聞いたというのです。

人間の絶望であるはずの死が、イエス様に関して言うと、どうもそうではないらしい。

死のちからはイエス様を押さえつけたままにできないというのです。

復活というのは「死んでいた人が息を吹き返す」という意味よりも「再度立ち上がる」という意味があります。

神の力が肉に対する最大の武器である死に直面したイエス様を、再度立ち上がらせ、自らの本来の居場所に立ち戻ることをさせたというのです。

神学的には「イエス様はまったき神であり、まったき人である」

つまり、イエス様は肉体的には「死」を通過しますが、死に支配され続けることはなく永遠の神として、死に対して再び起き上がる力をお持ちだということなのです。

弟子たちにはそのことは理解できていませんでした。常識的に、理解は難しいと思います。

3) イエス様の嘆きと説明

24:25 そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、

24:26 メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」

24:27 そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。

24:28 一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。

「栄光に入る」という表現がありますが、これは単に死から蘇生するという意味ではなく、死はイエス様を押さえつけ続けることができず、イエス様は立ち上がり、完全な人、完全な神としての地上での役割を果たし、神のもとに戻られるという意味でしょう。

苦難という表現がありますが、これは重い言葉です。

イエス様は、全くの無罪であり、総督ピラトもそれを認めていたはずなのですが、人間的に言えば、濡れ衣を着せられても何の抵抗もせず、嘲られても、鞭打たれても、十字架を担ってさらしものようになっても、まったく抵抗を示さず、自らの命まで差し出すという究極の愛と赦しの象徴として十字架の一部始終を見る必要があります。

その苦難の道をすべて成し遂げたからこそイエス様は栄光に入ることになるのです。

それは旧約聖書の預言どおりの内容です。詩篇22編などはまさに十字架の出来事そのままが描かれており、イザヤ書53章はその苦難の様子が描かれています。

4) 弟子たちの気付き

24:28 一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。

24:29 二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いて

いますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。

24:30 一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。

24:31 すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。

24:32 二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。

不思議なことにイエス様はずっと語っていたかったようです。まだまだわかってほしいと思うことがたくさんあったのだと思います。しかし、日も暮れてきたので、宿を取るわけですが、ここで食事の場面が描かれています。

まさに、最後の晩餐の場面とダブります。そして不思議なことに、ここでイエス様の姿が見えなくなるのです。

5) 心が燃える

二人の弟子たちの会話が印象的です。

24:30 一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。

24:31 すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。

24:32 二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。

イエス様は、私達の心に語りかけ「心が燃える」「心で感じ取る」ことができるようにして下さいます。イエス様の姿は見えないのですが、あたかもイエス様に語られて

いるような気持ちになり、神様のことも自分のことも、ふと、心の中に温かい空気と一緒に「感じ取らせて」もらえることが多いのです。

それは、まさに、復活のイエス様の「生命の息の吹きかけ」とも言える出来事です。

イエス様は今も生きておられて、心の中に「あたたかい気持ち」をおつくりくださいます。

そこに私達の希望があるのです。

イエスは死に打ち勝ち、立ち上がり、栄光の中に帰られた。そして今、私達に語っておられるという出来事を私達は体験しているのです。

主はよみがえり、栄光の身体をもち、私達に見えない形で、語りかけ感じ取らせてくださいます。心がホッとして、温かくなるような出来事を私達に経験させてくださっているのです。

主はよみがえられ、わたしたちに道を示し、わたしたちに語ってくださいます。

絶望から希望への道を示してくださいます。

だから、私達も希望をもってすすめるのです。

礼拝映像はこちらです。

<http://gsmail101.com/r/c/yXkH/ygzJ/ZXowu/>